

男鹿真山伝承館：実演 作柄～ばあさまの話

話題は自然と酒から過去 1 年の収穫の話になります。収穫は村の暮らしには最も重要なもので、なまはげは必ずその話をします。家長は過去 1 年は豊作だった旨を伝え、豊作はなまはげ、ひいては山の神々のおかげであると感謝します。

なまはげは、また田畑に恵みをもたらすことに同意しますが、翌年中家族全員が力を合わせて努力しなければ作物は育たないとも警告します。このように発言するのは、なまはげには地域社会の構成員全てに勤勉さを植え付けるという重要な役割も与えられているからです。

なまはげは、正統な家族観の庇護者でもあります。なまはげは家長に歳を重ねつつある母の調子を尋ね、健康で本人もそれに対して感謝している旨を聞くと嬉しそうにします。なまはげは、家族全員で力を合わせて高齢の家族の世話をしなければいけないと伝えます。これは日本でもその他の国でも、伝統的な価値観を守っている地域ではおなじみの事ですが、家族が当然なすべきことと考えられています。